

子ども医療費助成に
おける償還払いから
現物給付への移行に
ついて

代表質問



大田原創生会

滝田 一郎 議員

市内水源地の増強に
よる給水原価削減等
水道ビジョンの実現に
ついて

質問…子ども医療費の現物給付

に向けての受給資格登録（受給資格者証交付）等及び医療機関との調整について伺います。

答弁…子ども医療費助成の受給資格については、出生や転入の際の登録情報により、現在の6歳児から中学2年生までのお子さんを対象に、令和4年4月以降に使用する新しい受給資格者証を3月下旬に発送いたします。

また、現物給付拡大に係る審査

支払い業務の委託についても、栃木県国民健康保険団体連合会及び社会保険診療報酬支払基金栃木支部の双方と4月1日からの実施に向けて、3月中旬に契約できるように事務を進めています。なお、各医師会と県内医療機関等に対しては、3月末までには現物給付の拡大に係る協力依頼とチラシを配布し、併せて

市や支払基金等のホームページ

や広報紙などにより周知を実施してまいります。
質問…現物給付における人件費など市の業務軽減について伺います。

答弁…窓口業務が0.5人分ぐらいは減るのではないかと査定はしていますが、実際は始まってみないと分からないというのが現状です。

質問…本市には多くの水源があり

石上配水池を含め、12施設が稼働しています。県内14市の水原価を水源別でみると県水など受水を伴う市は軒並み高水準です。とりわけ県水の利用率が高い本市は県内で最も高い1㎡当たり191.9円です。そこで市内水源地の増強及び統廃合による給水原価削減を行い安定、効率的な水道事業を目指すべき

と考えますが見解を伺います。

答弁…水需要や施設の劣化度を調査するとともに、施設の統廃合が可能な施設は積極的に行い、施設の長寿命化を図るための修繕等を行いながら給水原価の削減に努めています。なお、平成21年度から8か所の水道施設の統廃合を行っています。
質問…水道の主要建設計画について伺います。

答弁…今後の工事計画については、建設後約50年経過しました大田原配水池の更新工事、大田原浄水場から大田原配水池への送水管の更新工事、湯津上、黒羽地区の配水池の耐震化工事、老朽化している電気計装設備や配水管更新工事を計画的に行い、強靱な水道施設の整備を進め、安全で安心な水道水の供給に努めてまいります。